### コミュニティ活動助成

# NPO法人 トルシーダ

愛知県豊田市

外国人集住の保見団地における移動屋台を活用したコミュニティ活動







愛知県豊田市に位置する保見団地。愛知県住 宅供給公社による県営住宅25棟、UR都市機 るマンモス団地で、4つの区域にそれぞれ自治 会が存在する。居住者の約半数を、ブラジル を中心とした外国籍住民が占める





也域住民が参加した、屋台「移動式公民館」の製 作ワークショップ。共同作業を通して親睦を深め る狙いだ

#### 団体設立経緯

学校へ行っていない子どもとの 出会いをきっかけに、1998年、99 年にボランティアによる「短期集中 日本語講座」を実施しました。そ の後、2000年4月から豊田市が実 施した青少年健全育成事業の立ち 上げに協力、事業に参加したメン バーが中心となり、03年にNPO法 人トルシーダ設立に至りました。

この間一貫して「居場所」を物理 的な場所としてだけでなく、子ども との人間関係=心の居場所と考え、 不就学、不登校、来日直後の外国 籍の子どもの日本語教育を通して居 場所づくりの活動を続けています。

## 活動概要と活動対象範囲

活動の対象となる保見団地は、 居住者の半数以上が外国にルーツ を持つ人々です。また、最盛期に は1万2000人を擁したマンモス団 地としての側面もあります。保見団 地では、地域の方々が集まれるの は自治区集会所に限られることか ら、団地内に数多くある広場や公 園を巡りながらの活動を通し、団 地居住者間の交流を促します。活 動に際しプラットフォーム、そして アイコンとなるような屋台「移動式

公民館」を住民とのワークショップ で製作しました。

## 活動に至った理由や背景

これまで保見団地を中心に日本 語教室、食糧支援、子ども食堂に 取り組んできた結果、国籍を問わ ず多くの人々との交流が生まれてき ました。相互理解を目指して地域 の人々をファシリテートしていく活 動が、安否確認や生活相談の場 へと成長していくことを実感しまし た。活動を続けることで人通りが 多くなった結果、景観を悪化させ ていたゴミ捨て場について、地域 課題として意識する住民も現れる ようになりました。

これまで積み重ねてきたこれら の活動の場を、団地内の公園・広 場というオープンスペースに広げる ことで、ファシリテート活動→活動 に関わる地域住民の増加→人通り の増加→団地景観の自発的な改善 という好循環がさらに波及するこ とを期待しています。

## 活動内容と成果

22年4月は、公園や広場の利用 に関する協議と、移動式公民館製 作に関する準備・協議に費やしま

した。公園や広場の利用に関して は、それぞれの団地の管理者、自 治区と協議しました。並行して移 動式公民館の収納場所について協 議し、普段は本棚替わりとして利用 して収納スペースを確保し、イベン ト時のみ移動式公民館として利用 するというアイデアが生まれました。

協議を経て、県営住宅エリアに ついては自治区の承認があれば、 どの公園・広場でも使用すること が許可されました。またURエリア は、トルシーダのみで活動する場 合は日本語教室として借用している 集会所前の広場、自治区などが主 催するイベントに併せて移動式公 民館を出す場合は、その場所での 使用が許可されました。

移動式公民館の製作に関して は、大工さんやテントメーカー、アー ティストなどの専門家との話し合い を進めました。なるべく地域の方に 製作段階から参加してもらうための 工夫や、騒音を出さずに製作をす る方法などについて協議しました。

5月は、移動式公民館を製作す るためのワークショップ (WS) を3 回にわたって開催しました。第1・ 2回では、地域の大工さんをWS講 師として招き、地域住民と協働で





屋台の躯体に架けるタープも、ワークショップ形 式でつくった。小学生児童を中心に参加があり、 思い思いにペイントした素材を組み合わせて完成

躯体を製作しました。主に20代か ら30代男性の地域住民、また住 民ではない地域の高校生など、約 15人が参加しました。なるべく電 動の工具を使用せずに、誰でも製 作に参加でき、参加者間のコミュ ニケーションを促す形を目指しまし た。例えばビスを留める際には、 ラチェットレンチと呼ばれるテコの 原理を利用した、弱い力で回せる ドライバーを使用しました。

第3回では、アーティストとテン トメーカーが主導し、移動式公民 館のタープ部分をペイントしました。 小学生の子どもを中心に、高齢の 方も含めた地域住民が参加しまし た。参加者の合計は約30人となり ました。WSの会場は、19年にアー ティストが壁画を描いた保見団地内 の広場 「地球家族広場」を利用しま した。A3サイズに切ったテント地を 参加者に配布し、参加者が思い思 いにスプレーでペイントして、ター プに仕立てる目論みです。全3回の ワークショップは、新三河タイムス 社の取材を受け、一連の企画につ いて新聞に掲載されました。

6月前半は、ペイントされたテン ト地を1つのタープとしてまとめる 作業を、テントメーカーの協力で実 施しました。6月後半には、地域住 民と一緒にタープを躯体と組み合 わせて移動式公民館を完成させ、 お披露目会としました。県営住宅 の中心に位置する中広場を会場と して、試験的に無料で飲み物を振 る舞う「フリードリンク」も実施しま した。このお披露目会には、子ど もを中心とする約30人の地域住民 に加え、豊田市長や保見地区選出 の市議会議員、愛知県住宅供給 公社三河加茂地区所長も参加しま した。

7月には、第1回移動式公民館 を開館しました。午前10時から12 時までコーヒーを振る舞い、様々 な世代の人が集うイベントとなりま

した。開催場所については、新型 コロナウイルス禍で高齢の居住者 が多い県営住宅エリアは使用を控 えるようにとの要請が自治会から あったため、URが管理するエリア の広場を利用しました。

参加者は合計25人程度で、参加 者層は子どもから高齢者まで様々 でした。無料で気軽に立ち寄れる 雰囲気を心掛けたことで、これま で関わりのなかったような方と偶 然出会ったり、日中時間がある独 居の高齢の方が遊びに来たりと、 新たな出会いと高齢者の緩やかな ケアが自然と重なるような場所に なりました。

8月と9月は、引き続きURが管理 するエリアの広場を利用し、移動



程度の頻度で移 動式公民館を開 催した。無料で 舞い、サロン的

式公民館を1回ずつ開館しました。 フリーコーヒーに加え、簡易的な サロンスペースを併設し、前回よ りも滞在時間を長くしてもらえるよ うな設えにしました。すると7月同 様、様々な世代の方の参加に加え て、近隣にキャンパスを構える愛 知県立芸術大学の先生方も訪れる など、外部との接点ともなる可能 性が見えてきました。また、保見 団地内で児童向けに日本語を教え ている任意団体に子どもを預けて いる外国籍の親御さんも立ち寄っ てくれるようになり、少しずつ地域 内での連携が生まれてくるようにな りました。

10月は、UR自治会の秋祭りに 移動式公民館を出展しました。こ れまでのフリーコーヒーに加えて、 「青空本屋」を併せて開催しまし た。寄付していただいた日本語の 絵本を、来場者が自由に選んで持っ て帰れる仕組みです。

フリーコーヒーは、徐々に顔な じみの方が増えてきた印象があり ました。青空本屋は、それぞれの 来場者が丁寧に本を吟味して持ち 帰っている様子が印象的で、特に 外国にルーツを持つ方々は日本語 に触れる機会として絵本を必要と している事が分かりました。この 企画があったためか通常よりも子 どもの参加者が多く、合計50人以 上が移動式公民館に訪れました。 今後は青空本屋と併せて、読み聞 かせの機会も設けていきたいと思 います。

11月は、フリーコーヒー+サロン の移動式公民館。場所はURの広 場です。これまでに培ってきた、交 流とケアの場としての機能が定着し てきました。加えて、保見団地を対 象にドキュメンタリーを制作してい る映像会社や、保見団地での活動 を助成する中部圏地域創造ファンド

からインタビューを受けるなど、保 見団地に関心のある団体と地域と を結ぶ役割を果たしました。

23年2月は、豊田市猿投支所か ら保見団地ゴミ拾いイベントへの 出動を依頼され、ゴミ拾いに参加 された方が一息付く場所を開きま した。これまでは、移動式公民館 の出動場所を事前に自治区と管理 者に申請する必要がありましたが、 ゴミ拾いイベントは団地全体のイ ベントであり、場所を少しずつ移動 しながら開くことができました。2 月以降はこれまでの活動を振り返 り、今後の方針などを相談する期 間となりました。

一連の活動を通じて、目的が なくても気軽に地域の方が訪れる 場所づくりの重要性を実感しまし た。これまで保見団地では、外国 籍住民の集住に対してどのように 課題を解決していくかなどの調査 は、主にはアンケート方式でした。 移動式公民館では、世間話などを 通して、保見団地に対する考えな どを聞くことができます。言語や 識字のハードルで、普段なかなか 住民意識調査などに答えられない 方々とも話をすることができ、アン ケート調査からは見えてこないこと や、抜け落ちてしまっている人々の 意見を聞く機会となりました。

移動式公民館の経験を経て、日 常に入り込み、肌感覚的に地域を 理解することの重要性を実感しま した。22年度、弊団体や大学な ど5つの団体で構成する「保見プロ ジェクト」は、地域の未来像を見据 えた将来ビジョンを策定しました。 その中にも、移動式公民館から得 られた知見を寄せました。

#### 課題と解決方策

当初想定していた、URが管理 するエリアと県営自治区が管理す るエリアを横断して移動式公民館 を開館することは、コロナの影響 でできませんでした。特に県営住 宅は高齢の居住者数が多く、飲食 を伴うイベントを控える必要があり ました。

一方で、URが管理するエリアで は比較的自由に移動式公民館を開 催できました。それぞれのエリア の特性に合わせた企画を考えるこ とで、課題を解決する必要がある と感じました。例えば、高齢者の 多い県営住宅では健康相談や血圧 チェックも兼ねたイベントの開催な どを想定しています。

#### 今後の予定

今回は、NPOトルシーダのみで 移動式公民館の活動を実施しまし た。23年4月にはNPOトルシーダ、 中京大学、県営保見自治区の3者 による団体「保見団地センター」が 設立されました。このセンターで、 活動を引き継いでいきたいと考え ています。コロナ禍が治まってきた ため、県営住宅エリアでの活動の 展開も目指します。

#### 特定非営利活動法人トルシーダ

2003年8月設立、同年11月法人化/メンバー数:129人/代表者:伊東 淨江(いとう・ きよえ)

- ●〒471-0034 愛知県豊田市小坂本町1-4-12 梅村ビル3F1
- ★a090-6462-3867 Intercidajpjp@yahoo.co.jp torcida.jimdofree.com/

「居場所」を物理的な場所としてだけでなく、子どもとの人間関係=心の居場所と考 え、不就学、不登校、来日直後の外国籍の子どもの日本語教育を通して、居場所 づくりの活動を続けています。